

コロナウイルスに負けるものかと、毎日頑張っている清瀬の小中学生の皆さんに、教育長からお願いがあります。

コロナウイルスの感染拡大がなかなか収まりません。

短かった夏休みが終わりました。田舎のおいちゃん、おばあちゃんに会えなかった君、楽しみだった海水浴や山登りを我慢したあなた、目標にしていた部活動の試合や大会が中止になってしまった中学生のみんな、夏期講習もオンラインで受講しなければならなかった受験生諸君…。みんなはコロナウイルスをこれ以上広げないように、様々なことを我慢し、国民としての責任を果たしてくれました。

2学期が始まり学校が再開しました。皆、暑い中しっかりとマスクをつけて生活しています。給食時にはおしゃべりを控えて全員が前を向いて食べています。本当はグループで協力しながら進めるべき理科実験も、一人一人がしっかりと考え判断しながら個人で取り組んでいます。合唱活動ができない中「いつかきっとクラス全員が心ひとつに歌うことができるようになるはず…」の思いを胸に音楽授業を受けています。

そんな、コロナウイルスに負けまいと頑張っている皆さんがいる一方で、今、社会では、決して許すことができない問題が起きている。それは感染した方や濃厚接触者、医療に携わる人たちへの偏見や差別の問題です。

「あいつが感染したから、また学校が休校になってしまった」とか「あの家族から感染者が出たから、話かけられても無視しよう」とか「親が病院に勤めている子どもは保育園ではあずかりません」とかいった、傷つく言葉を投げつけたり、心を踏みにじるような行いをしたりする人がいるのです。

今、誰がウイルスに感染してもおかしくない状況です。親しい友達がその被害者になるかもしれませんし、ご家族が感染し友達が濃厚接触者となってしまうかもしれません。またどんなに注意していたとしても、明日、自分や自分の家族がコロナの被害者になるかもしれないのです。

もし、自分がその立場になったとき、周りの人たちから差別されたり、嫌がらせを受けたり、傷つく言葉を投げつけられたり、感染したことを責められたりしたらどう思うでしょう。自分に置き換えて考え、行動してください。

そしてもしもあなたの周りに感染を恐れるあまり、差別したり、嫌がらせをしたりしてしまっている友達がいたら、勇気をもって「そんなことはやめよう」と止めてください。どうしてもその一言が言えないときには先生や親などの大人に相談してください。これも立派な勇気です。

また、万が一、あなたが差別や偏見、いじめの被害者になってしまったときには、決して一人で悩まず、信頼できる大人に相談してください。直接話をする決心がつかなければ、悩みを電話で相談できる窓口（裏面を見てください）を利用してください。必ずあなたの心に寄り添いながら解決に向けて対応してくれます。

言葉は口から発せられるものではありません。また態度は手足から生み出されるものでもありません。すべて「心」が源なのです。

今こそ、みんなの「心」が必要。他者を思いやる優しい「心」、誰に対しても差別や偏見なく接することができる公正・公平な「心」、相手の良さを認める寛大な「心」、他の人と力を合わせて問題を解決していく協力の「心」…。

清瀬の小中学校に通う子供たち全員の「心」を集めて、コロナを乗り越えていきましょう。私たち大人も全力を尽くします。

令和2年9月1日

清瀬市教育長 坂田 篤